

Ⅱ 事業報告

◆ 第三次聖学院教育会議(8月4日 於:聖学院中高ガイホール)

「東日本大震災とどう向き合うか―聖学院教育の課題として」を主題として、話し合われた。特に、学生、生徒によるボランティア報告については、参加者一同、災害救援に取り組む真摯な報告に心を打たれ、聖学院教育の姿を見る貴重なプログラムとなった。最後に阿久戸光晴理事長による総括の後、「第三次聖学院教育会議宣言文」を出席者全員で採択した。

第三次聖学院教育会議宣言文

今、日本社会はあの3月11日の大震災後の苦悩の中におります。主よ、被災に苦しむ方々と私たちのこの国を憐れんでください。

私たちは、この大震災をひたすら強者の国を目指してきた日本国の第二の挫折体験として受け止めます。主イエス・キリストは、苦難は誰かが罪を犯したからではなく神のみわざがあらわれるためである、と言われました。私たちはこの教えを希望の光とします。聖学院教職員一同は、格差拡大の「競争社会」でなく、お互いの痛みを共有し、その賜物を分かち合い、助け合って生きる「協力社会」を形成し、その社会に貢献する人間の教育に献身していくことを目指します。

教職員のみならず保護者や同窓生もともに、「聖学院教育憲章」に基づくこの使命に、神から託された聖なる召命として献身していくことをここに聖約いたします。

2011年8月4日

第三次聖学院教育会議出席者一同

1. 教職員の活性化

全学

- (1) 2011年度の主な管理者就任は、大木英夫先生の理事任期満了に伴い新理事長に選任され就任した阿久戸光晴先生、及び大学チャプレン・女子聖学院中学校高等学校副校長を経て女子聖学院中学校高等学校長に阿部洋治先生が就任した。
- (2) 人事関連制度の改定では、年々減額の傾向にある東京都給与を準用している聖学院幼稚園及び聖学院みどり幼稚園教諭の給与低下に歯止めをかけるため、聖学院独自の幼稚園教諭給与体系を制度化した。
- (3) 事務職員への教育研修では、聖学院を取り巻く厳しい環境下における事務管理職への期待が理事長から講話された。また、新任事務管理職を対象に、専門家による管理者基本研修を実施した。
- (4) 2011年度に14人が特任教職員から聖約専任教職員に就任した。

2. 教育環境の整備

- (1) 主な改修工事、購入等(1千万円以上)

聖学院大学	図書館棟1階冷温水機(ボイラー)更新	17,401 (千円)
	4号館エレベーター改修	18,900
	1号館、2号館AV設備整備	11,340
	図書館システムリプレイス	10,067
	シャローム館建替え	47,828
	部室棟建替え	59,600
聖学院中学校高等学校	本館・講堂棟南側壁面撥水塗装	59,850
聖学院小学校	給水管更新	31,500
聖学院幼稚園	仮設園舎建築	85,000

- (2) その他

聖学院大学

<GP>

今年度はテーマA、テーマB、就業力育成支援事業の3つ。なお当初から最終年度であったテーマA、テーマBに加えて、就業力が事業仕分けにより2011年度までで打ち切りとなったため、3つすべてが最終年度となった。

補助金額：テーマA 11,800千円 テーマB 8,000千円 就業力 17,139千円

<科学研究費補助金>

①代表者分(本学の教員が代表者となって行う研究)

14件 直接経費 12,688千円 間接経費 3,806千円

②分担分(他大学の教員が代表者で分配を受けて行う研究)

10件 直接経費 2,745千円 間接経費 823.5千円

合計24件 直接経費 15,433千円 間接経費 4629.5千円

3. 聖学院各学校の主な事業

(1) 記念事業

聖学院大学

- ・ 創立記念音楽会が11月5日行われ、ゲージ弦楽四重奏団を迎え、近隣の方々とともに恵みの秋を分かち合うことができた。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

聖学院大学

- ・ 埼玉県による「元気な地域を想像する子ども大学推進事業」のあげお・いな・おけがわ学習プログラムに参加し、講義と実習として「クリスマスと文化（Ⅰ）（Ⅱ）」を実施した。
- ・ さいたま市と大学との連携事業「学生政策提案フォーラム in さいたま」に学生が参加し優秀賞を受賞した。

女子聖学院中学校高等学校

- ・ 中学1～3年生対象の自習室を改善し、特に、中1を対象に課外講義型の学習室とした(数学は週2コマ、英語週4コマ)。中2～3は継続。

聖学院小学校

- ・ 小学校学習指導要領の改訂を機に、カリキュラムの改訂と行事期間の見直しを行った。主な変更点は1) 一コマの授業時間40分から45分に改訂。2) 3・4年に総合科の授業を新設した。3) 1・2年生の宿泊行事を春から秋へ変更。4) 運動化実施時期を10月から5月に変更。
- ・ 子どもたちの表現力を育てることを重視して、ライティングワークショップ「作家の時間」を全学年で導入した。一人ひとりが自由な発想で文章を書き、校正から製本までを行う。それぞれに感想を交換しあうなどして、楽しみながら表現力を向上させていく。

聖学院みどり幼稚園

- ・ 子育て支援センター わかばを幼稚園内で行う準備を始めた。

セインツ

- ・ 英語社会カリキュラムの改革—今までアメリカ社会、地理、歴史、政治+経済一般が学習内容であったが、今年から4, 5, 6年にわたり、三年間の世界についての学びを追加した。

(3) 教育研究の充実

聖学院大学

- ・ 保育士・幼稚園教諭の資質向上のための研修事業を埼玉県から委託事業として受けた。

聖学院中学校高等学校

- ・ 「21世紀型教育」と教育の質の向上をめざし、2011年度の教員研修を行ってきた。その途中経過として各教科のステートメントをHPに掲げ、学力は3層構造<学んだ力・学ぶ力・学ぼうとする力>であることを踏まえて、2012年度も教

女子聖学院中学校高等学校
聖学院小学校

育の質をさらに深化させる挑戦を行っていく。

- ・中2の英語をクラス二分割制にした。
- ・昨年度まで低学年は5校時までで授業が終わるときは、3時に下校していた。そこで学校の友達と遊ぶ時間をもっと確保したいとの考えから、届出を出せば、毎日午後4時まで学校に残ることができる「放課後タイム」を新設した。児童、保護者から好評である。
- ・音楽祭を11月18、19日の日程で、例年通り聖学院中高講堂で行った。この音楽会は日頃の音楽の授業の成果を発表する事のみならず、演奏することと聴くことのマナーを身に着けることを目としている。保護者の参加もあり、最後は「ふるさと」の大合唱となった。
- ・教師研修日「平和のスキル」ワークショップ
- ・毎夏行っている夏休みの教師研究発表にあたっては、なるべく多くの教師からの発表してもらうよう、さらに研究の質の向上に努めた。

セインツ

(4) 教育環境の整備

聖学院大学

- ・1号館(1202・1205・1209・1303 教室)、2号館 2403 教室のマルチメディア設備をリプレイスし、インターネットやパワーポイントなどマルチメディアを活用した授業などで活躍されている。
- ・秋学期より、学生が大学 HP 上で「履修登録確認リスト」を閲覧・印刷することが可能となった。
- ・無線 LAN「SWAN」を全学カバーしたことにより、多くの部分でネットワークへのアクセスが可能となった。

(5) 環境基盤の整備

聖学院大学

- ・ファシリティの有効活用と学生サービスの向上のため、学内にコンビニエンスストアの開設と、殆どの銀行・金融が利用できるATMを設置した。また、念願の部室棟の新築とシャローム館改築を行った。建築費用の9割は同窓会費で施工された。3月28日(水)には、シャローム館・部室棟の完成を祝う会[竣工式]が行われた。
- ・ECOキャンパス作りとエネルギー効率化・リスク分散化の一環として、7号館空調機(エアコン)の更新(7401 除)、4号館エレベーターの更新、図書館(本館)棟の空調源である冷温水発生機を重油からガスによる機器に更新した。これにより、

- 学内のエネルギー源は、電気・ガス・灯油・太陽光と4種類となった。
- ・コンビニとATMを設置し、キャンパスの利便性が向上した。
 - ・グラウンドを整備した。
 - ・体育館気化式涼風装置（移動オアシス）を設置した。
- 女子聖学院中学校高等学校
- ・東京都水道局の「学校リフレッシュ水道事業」の一環として、都の助成金を受けて夏休みに直結水道方式導入工事を実施した。これにより老朽化していた給水管を全て交換でき、学内の全ての蛇口、浄水器、トイレ等での水の勢いが増したことで、児童、保護者に好評である。
- 聖学院小学校
- ・3月11日の大震災の影響で園舎の使用を中止するとの判断が法人によってくだされ、新園舎建築計画が急遽持ち上がった。「緊急避難」として5月末～9月末の間、女子聖学院クローソンホールで保育をおこない、10月に仮設園舎へと2度の引越しをした。新園舎は2012年12月に完成予定である。
- 聖学院幼稚園
- ・プータロ等の危険な遊具の撤去。
- 聖学院みどり幼稚園
- ・保健室が養護教員(特任1名)と看護婦(非常勤)の二人体制であったが、現状に鑑み養護教員二人とした。
- (6) 人事の活性化
- 女子聖学院中学校高等学校
- (7) 国際連携
- 聖学院大学
- ・アメリカ提携校ラグレインジ大学に1名派遣、韓国提携校湖西大学校に2名派遣、2名受け入れた。
- 総合研究所
- ・東日本大震災国際神学シンポジウム（アメリカのフラー神学校、国内他大学等との連携による）を開催した。
 - ・長老会神学大学校との共同研究・セミナー、東アジアの平和と民主主義シンポジウム（日韓中学術シンポジウム）を開催した。
- 聖学院小学校
- ・オーストラリア・クイーンズ州のカランドラシティスクールへのホームステイプログラムを、7月23日から30日まで実施した。参観者は5年生8名、6年生2名だった。
 - ・セインツへの短期プログラムを4月23日から5月6日まで実施した。参加者6年生1名。
- セインツ
- ・日本の被災地にある小学校との文通。
 - ・アメリカの学校との交換授業等。
 - ・サービスマーケティング「アフリカの角プロジェクト」。

(8) 学生生徒・教職員等の活躍

聖学院大学

- ・さいたま市と大学との連携事業「学生政策提案フォーラム in さいたま」において「さいたま市空き地・休耕地事業」を提案した花盛りチーム(平ゼミ・岩井亮太他)が優秀賞を受賞した。
- ・日本GP第3戦第45回織田幹雄記念国際陸上競技会女子棒高跳4位、第95回日本陸上競技選手権大会女子棒高跳2位。第90回関東学生陸上競技対校選手権大会男子2部走り幅跳3位、第19回アジア陸上競技選手権大会女子棒高跳決勝5位、国際大会で初入賞。2011年度日本学生個人陸上競技選手権大会女子100m準決勝進出。第84回関東陸上競技選手権大会女子棒高跳優勝。
- ・北関東大学軟式野球連盟 2011年度オールスターメンバーに本学学生1名選出、東北選抜試合で北関東大学軟式野球連盟の勝利に貢献した。北関東大学軟式野球連盟主催秋季リーグ戦(東地区)2位。

女子聖学院中学校高等学校

- ・第5回チアリーディングアジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ(決勝進出)全国高校5位、第13回関東チアリーディング選手権大会9位、JAPAN CUP 2011チアリーディング日本選手権大会 高等学校部門準決勝進出、第22回全日本高等学校チアリーディング選手権大会12位、東京都中学校吹奏楽コンクール A組銀賞受賞、東京都高等学校吹奏楽コンクール A組銀賞受賞、東京都高等学校アンサンブルコンテスト(都高等学校吹奏楽連盟主催)にて金賞を受賞、都大会へ進出、東京都アンサンブルコンテスト(都吹奏楽連盟主催。都大会に当たる)にて銀賞受賞、北区中学校バドミントン春季大会・夏季大会シングルス3位、高演劇部が城東地区冬季合同発表会にて優秀賞、心象舎主催第57回全国学校書道展で中3-3大浦紀世が全日本中学校長会会長賞・高1-4川麗薫が読売新聞社賞を受賞した。
- ・理科の藤原博伸教諭が、「簡単なフィールドミルの作成と大気電場の観測」という研究テーマで理工学振興会から研究助成を受ける。

聖学院みどり幼稚園 セインツ

- ・新しいかたちの基礎実習の実施に尽力した。
- ・NHK俳句大会入賞、仏教大学主催俳句コンクール入選、被災地支援のための総領事館主催ポスターコンテストでの受賞、英検2-4級合格、アメリカ全国標準テストアイオワテ

スト(主要四教科)でバイリンガル児童のみならず、日本から来た児童のほとんどが学年平均を超える好成績を収めた。

(9) その他

聖学院大学大学院

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科では、1名の博士学位の授与(課程博士1名)を許可した。

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士課程2年生兼松誠氏の論文「信仰と責任ーハース・ヨナスにおける無力な神ー」が西日本哲学会奨励賞を受賞した。

聖学院大学

枝野幸男経済産業大臣による「日本の針路と若者の希望」講演が開催され、枝野大臣との質疑応答も行われた。

被災地の復興支援を目的とし、復興支援ボランティアセンターを設立した。

法人本部

聖学院中学校高等学校ガイホールにて、第25回ASF総会・推進委員会が開催された。今年度の募金方針として「東日本大震災救援・復興に聖学院としてできること」「聖学院幼稚園耐震工事について」を中心としていくことが阿久戸理事長から発表された。